

Virtual Global Network (VGN)の実用化に向けた研究開発

(札幌医科大学大学院医学研究科生体情報形態学 教授 辰巳治之)

IPv6 Topological Addressing Policyに従ったEnd to End MultiHomeによるVirtual Global Networkを実用化し、医療ネットワークや地域ネットワークにおける諸問題解決を図る。この開発によりIPv6の利用促進や次世代ネットワークの高度応用の基盤形成が期待され、災害時などにも役立つ可能性がある。さらにIPv6 Global Addressの優位性が立証されれば、IPv6によるネットワークが加速され安全・安心・便利・安価な高度情報化社会が推進され、我々が提案している「戦略的防衛医療構想」実現への発展が期待される。



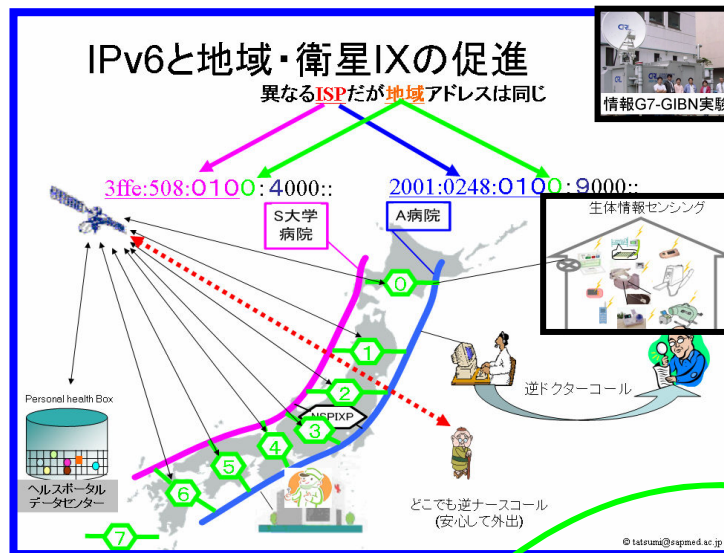
登録商標申請予定

医療系VGN応用イメージ



NPO JAMINAとの連携による
(日本医療情報ネットワーク協会)

- IPv6 Topological Addressing Policyによる
(JPNIC Open Policy Meeting 2002にて発表)
:セキュアードシステム、冗長化、地域IX形成促進

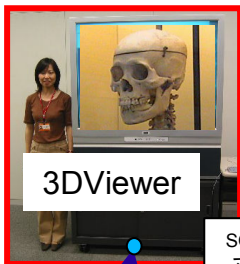


黒枠で囲ったものは
すでに実証済み或いは
現在進行中のもの、
青枠は将来の発展系

札幌医大
標本館

発展系

TCP-MH



SOCKより先は
マルチホーム
が有効

より遅延を短く
よりパケットロスを少なく

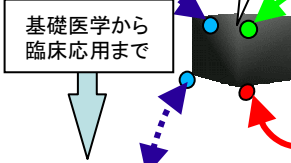
災害時

TCP-MH対応

- End To End Multihome
(TCP-MultiHome オプション実現)
による: 高品質・耐障害性確保

JGNII活用

(NPO) NORTH
アクセスポイント



TCP-MH対応
SOCKS/Proxy

発展系

ロボット手術への応用
オリンパス(ダビンチ)より

TCP-MH非対応でも利用可能なシステム



IPv6によるオリンパス視野内顕微鏡
(脳外手術)実験済み

